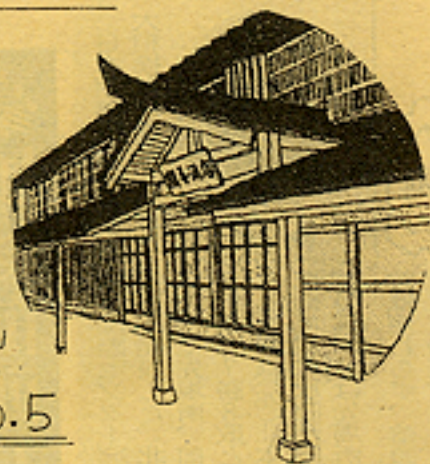


まち
の
風

通信 No.5



NPO 関善賑わい屋敷通信 H17.11.11

国の登録文化財へ申請中!!

- 10月に申請。順調に行けば3月頃審査会、7月頃認可の予定。

※鹿角市では、石島谷の渡部家資料館が3月頃認可の予定。

作業ボランティア募集!

- 受付・案内、室内掃除、雪あらし、片づけ、補修、展示作業などのボランティアを募集しております。

ホームページ更新!

- ホームページで関善紹介

<http://sekizen.s50.xrea.com>



特別寄稿

関善と花正宗

櫻田守宏(理事)

私がまだ小学生、つまり昭和二十年代の中頃であったであろうか、関善に糍(こうじ)を買いに、何度か遣わされた記憶が残っている。大きな構えの商家で、店の中は薄暗く、あたり一面糍の匂いがしていたような思い出がある。清酒の香りがすると、店の上部が吹き抜けで、壮大な小屋組みが見られることなどは、当時は子供故に記憶が定かでない。

関善の生業は造り酒屋であった。花輪の町に買出しなどの用事で訪れた大人たちは、一仕事を終えると、やがて関善の店に吸い込まれていった。

店内に漂う清酒や糍の快い香りに魅せられた客は、やおら吹き抜けを見上げ、あまりにも見事な小屋組みに感心し、おもむろに「もっきを呉れ」と。酒の肴は、たくわん漬、又は切り漬、はたまた酒の粕であったのであろうか。一口二口と飲んで辺りを見回し、やがて銘酒「花正宗」の商標に目がとまり、その出所について考えを巡らすのであった。

ところで、「正宗(まさむね)」の名のいわれには、刀のほかに、次のような話がある。

灘(兵庫県)の銘酒「櫻正宗」醸造元の祖、山邑太左衛門がある日、かねてより親交のあった山城国深草の「元政庵」住職を訪ねたとき、机の上に置かれていた「臨濟正宗」の経典を見て、「正宗(せいしゅう)」が「清酒(せいしゅ)」に語音が通じることから正宗を樽印としたのが始まりという。天保11年(1840)のことであった。明治17年(1884)に商標条例施行の折、代々続いてきたその醸造元は「正宗」と登録したが、政府は「正宗」を使用した酒銘が多いことを理由に「正宗」を普通名詞とした。そこで「正宗」に国花である桜花一輪を配して「櫻正宗」と名付けたのだという。

これですっかり納得し、身体がほてってきた客は、「もう一杯呉れ」と……

関善の名が広く知られるようになったのは、花正宗を代表とする数々の銘酒、高々と次く抜ける小屋組みの素晴らしさ、そして店内に漂う心地よい香気であったろうと推量される。

今の関善を思うとき、このように人々をひきつけるような造り酒屋の雰囲気は失われてしまうことなく、花正宗に誘われて上戸たちが入ってくるように、今後ともたくさんの方々を訪ねられることを期待する。

特別賛助金芳名板設置

建てる家保存のため、全国に呼びかけ、集まった意志の芳名板を土間裏土間に設置しました。

- ・全国各地 約500名
- ・総額 約800万円

— ありがとうございます。 —

◎ 今後も「芳名」受付継続中!!

特定非営利活動法人

NPO 関善賑わい屋敷

〒018-5201
秋田県鹿角市花輪字上花輪85
TEL 0186-23-7799
E-mail sekizen@s50.xrea.com
URL <http://sekizen.s50.xrea.com/>

開館時間 10時～17時

休館日 毎週木曜日
(※市日のときは翌日)

入場料 無料
(※保存協力金300円/口)

